

# 住民の健康管理並びに団結心 健康と固い結束、我らの空

(邑智町)

べっ ぶ なか  
**別 府 中**

## 地域の概要

町道と川を挟む周辺に約2 kmにわたって耕地が広がり、その高台に住宅が建つ集落である。以前は戸数20戸を数えたものだったが、今では12戸と減少し人口も38名となった。しかし多くの家に後継者も居り将来に夢を託すことが出来る。

## 取り組み概要

### 1 経過

自治会長の概要説明の後、「実行委員会」を設置し具体的な検討をすることとなった。委員会の構成は、青年会、婦人会、老人会の代表と自治会役員の計6名が参加し3回の会議を開き、結果を全体会にかけ結論を得た。事業内容は、出来るだけ町の指導のもとにソフト面にポイントを置き、且つ誰もが参加しやすいものとするに苦勞をした。

### 2 取り組みの状況

#### ① ウォーキング・クラブ

予算により購入したユニフォームを着用（冬期）して集落の周辺約3～4 kmを出来るだけ毎日各自で歩く事を第1に考え、時によっては近所の人々と一緒に散歩することもあった。また月1回程度は全体人数をそろえ参加するようにした。終わったあとに木陰でジュースを飲みながら談笑にふけることもあり、全体のコミュニケーション作りには大いに役立っている。

今年度は、三瓶山への合同ハイキングを実施し、共に会食と入浴を楽しむことができた。

#### ② コーラス・グループ

主に女性を中心に練習をしている。月1回の集金常会には、集会所に集まり購入したカラオケを利用して歌謡曲に親しんでいるが、これは農閑期しか出来ないことであり練習には時間的な拘束を受ける。でもカラオケの上手な人がおり皆で頑張っている。

まずはマイクに慣れることから始まり、音声の高低の認識、曲のスピード感、そしてメロディの強弱など覚え、夫々が自分に慣れた曲を2つぐらい持つことを目標に練習を重ねている。課題も多いが、泥落し旅行とか新年会などの楽しい雰囲気のある所では自慢の喉を披露し、誰も前で歌うのに躊躇しなくなった。

#### ③ 子供とのふれ合い事業

昨年は、「子供夏祭り」を実施して大変好評を得た。参加した子供達は中学生以下とし、夏休みを利用したの試みであり親戚方の子供達も集まり大いに賑いながらバーベキュー、西瓜割り、花火大会などの催して3時間がたちまちのうちに過ぎてしまったようだ。大人にとっても子供達の生の姿をよく知ることが出来る機会であり、一方子供達にとっては、家族以外の大人と身近に接し話などすることにより親密感が持てたものと思われる。今年度は三瓶山にハイキングを行いそこで入浴と食事会を楽しみ一日を過ごした。この事業は子供も大人も大変楽しいものであり、今後は形にとらわれないで継続して行きたいとの意見が多かった。

#### ④ プレハブ倉庫の設置

倉庫設置に当たり、各戸より出来るだけ男性1名が出て排水工事や土均し等の基礎工事から始めた。排水

# の高揚

## 集落データ

- 市町村名 邑智町
- 戸数 12戸
- ジャンル 文化、福祉
- 集落名 別府中
- 高齢化率 36.9%
- 策定年度 平成11年度

溝とブロックは購入し、セメントや砂などは各自が持ち寄り共同作業を通して基礎を完成させた。

まずこれまで各戸に分散保管されていた集落の物品を一括して収納し、次に葬儀などで使用する椀とか皿などの小物を改めて員数を確認しながら全員で収納作業し、集会所の整理整頓もした。

### ⑤ テントの設置

今までテントが無く必要な時には他の所で借用していたが、これには何となく気兼ねすることがあり、自由に使用できる物を欲しかった。

購入に際して、大きさ及び購入先などはプレハブ倉庫と一緒に実行委員会で決定した。まずは運動会で使用し、1つのテントに2つの自治会の選手が肩を並べて座ることができ、話も弾み団結心も盛り上がりとうとう優勝することが出来た。

今後は雨が降っても安心して行事が実施できる。

## 3 成果

散歩のためのユニフォームを揃えたことは大変好評であり、運動会、ゲートボール或いはベタンクなどのスポーツ参加や観戦には全員が着用し、それぞれの存在意識と帰属意識が確立されようとしている。また色彩も良く背中に英語のプリントもあるところからオシャレ着としても好評であり、よく着用されている。

子供とのふれ合い事業は、相互にわだかまり無く受け入れられたもので、これを機に子供と家族以外の大人との絆を深め、かつ、若い者と高齢者との精神的な繋りをより強めたい。このような事業は継続することで大きな意味を持ち、新しいことの発見に繋がって行くものであり全般に評価が高かった。

## 4 課題

- (1) 若者が積極的に参加してくれる事業内容
- (2) 特にソフト事業は継続するための資金面での苦労
- (3) 事業を継続する時の積極的なリーダーの養成
- (4) 活性化に携わるリーダー研修会の必要性
- (5) 女性が多いことから女性活動の一層の活発化



## 今後のビジョン

超高齢化社会を迎え長く生きることの必要性がある今、今後はその質を大切にしながら夫々が健康でお互いに支え合いながら心豊かに生活の出来る集落作りに努力しなければならない。

事業の中で、健康作りのため「ウォーキング・クラブ」がありそれなりに実践されているが、今後はこれを軸として「健康教室」に発展させ保健婦、栄養士などの専門家を招き具体的に家庭内における成人病対策の勉強会を考えたい。また将来を担う子供達に地域教育の一環として、遊びを取り入れた事業を何か実施したい。

## 集落代表者の声

別府中自治会長 柳浦 諄三

ハード面の事業は1回かぎりのものであり、今後はその上手な活用方法が求められる。一方ソフト事業は、工夫一つでさまざまな形に形成されるものであり、全員の創意工夫があれば色々な内容が生まれ、小さいことの積み重ねをもって全体像を完成させられる。

今までの事業全般に全員の評価も高く連帯感も生まれつつあり、これまでの実績を元に何か発展的なものとして継続しながら、集落の活性化のために少しずつでも努力して行きたい。

## 問い合わせ先

邑智町産業課  
☎0855-75-1214

# 手づくり活動で集落の活

(大和村)

## むらのごう 村之郷 1

### 地域の概要

旧村の布施村。山間に開けた地域で村の穀倉地帯である。29世帯69人が暮らしている。高齢者世帯が14戸あり、高齢化率57%と村内で最も高い。学校に通う子供が一人もない状況であったが十数年ぶりに子供が誕生した。

## 取り組み概要

### ① 経過

平成11年11月2日に初の集落総会を開き、集落の課題について話し合いを始めた。その後「活性化委員会」を設置し、課題や意見の集約を行った後、総会で活性化事業について話し合いを進めた。大まかな方針が出た後、事業を再検討し、拡大委員会を設け、具体的な計画と役割分担を定め、各部会ごとに実行計画を立てた。

### ② 取り組みの状況

#### ① 集会所の増築

集落内の高齢者を招いてのいきいきサロンの実施。行政の問題、福祉の問題、健康づくり、男の料理教室など、いろいろ身近な問題について学習を深めている。また、簡単なゲームやおしゃべりなど、集落内で交流する機会が増え、集会所が集落のふれあいの拠点として大いに活用されてきている。

#### ② 折りたたみテントの購入

屋外で行う集落のさまざまな活動時に使用する目的で、折りたたみテントを購入した。今では、高齢化により自宅で餅をつくことも難しくなっている。みんなで共同して餅つきをしたり、わら細工教室、集会所の門松づくりなど行っている。また、集落の近くには平成12年度に整備された蟠龍峡公園があり、公園内で「そうめん会」を行う等、公園が地域住民の憩いの場となりつつある。

#### ③ 地域伝統文化の伝承

地区に伝わっている「扇おどり」が消滅しそうであるという危機感から、今ならまだ何とか伝承出来そうだということで取り組んだ。扇を購入し日の丸を書いたり、また、ゆかた地を購入して縫う等、共同作業も多くみんなで手分けし、楽しんで取り組んできた。この扇おどりは当集落

# 性化

## 集落データ

- 市町村名 大和村
- 戸数 29戸
- ジャンル 文化
- 集落名 村之郷1
- 高齢化率 57%
- 策定年度 平成11年度

だけでなく、近隣の集落も巻き込み、毎月、踊りの練習を重ねている。今では盆踊りや、地域のイベント時に披露している。

### ④ その他の活動

集落の中だけの活動にとどまらず、集落で「淡路花博」への旅行を実施した。

### ③ 成果

病気や仕事の都合で参加できない人を除けば、ほとんどの人が参加している。「学習」と「娯楽」を組み合わせ実施しており、大変喜ばれている。活性化委員の分担と、協力で実施しており、一部の人に偏らない点がよいと思う。

また、集落の中には、人それぞれに得意分野があり、活動を通してそうした人材発掘の機会となっている。

### ④ 課題

- ① 「学習」と「娯楽」の両立はよいが、参加者が受け身的にならないよう配慮が必要である。
- ② 生産に結びつく活動や、奉仕的な活動を取り入れる。
- ③ 世代間交流を考えているが、若い人は仕事があって思うように参加できない。



## 今後のビジョン

集落のみんなで取り組んでいる、手づくりの「学び」と「楽しみ」の両輪活動を今後継続していく。これまでの活動はどちらかと言えば受け身的な活動になっているが、自分たちの身近な生活課題をみんなで話し合い、学び合い、そしていろいろな交流活動をとおして、安心して住める楽しい集落づくりを進めていく。

## 集落代表者の声

この活動を通して、集落の中にはいろいろな能力を持っている人がたくさんいることを知りました。この活動がいろいろな人の能力を掘り起こす場となっており、地域社会はお互いに持ちつ持たれつに関係にあることを実感しています。今後、若い年代層の人も参加できるような工夫をしていきたいと考えています。たとえば活動が遅々としても集落のみんなで相談しあい、集落民の協力体制を強めていく活動をしていきたいと思っています。

## 問い合わせ先

大和村 企画課  
☎0855-82-3123

# 青石共生コミュニティネット 持続可能

(羽須美村)

あお いし  
**青 石**

## 地域の概要

(集落の位置する地理的条件) 口羽地域から羽須美村の輪郭を流れる江の川沿いに県道都賀高宮線が役場から4キロ下がった引城から2キロ上ったところに点在する集落。  
(地域の概要) 高齢化が進む中、Iターン夫婦が地域内で牧場を経営。馬を飼育しながら100万事業で全戸パソコンネットを構築。指導、助言。ふるさとITの先駆。

## 取り組み概要

### ① 経過

Iターン者の活動を理解した住民が、100万円事業のアイデアを一任。  
高齢地域で見たこともない、触ったこともないパソコンを活用した取り組みに理解を示した住民は沖川さんに全面協力。

### ② 取り組みの状況

必要事項から集落住民への手ほどき。  
システムアドバイザーの沖川さんがいる安心から事業承知。  
メールで孫と通信して楽しむ皆さん。

### ③ 成果

広報やテレビに出て注目されるなど住民はイキイキ。

## 集落データ

- 市町村名 羽須美村
- 戸数 5戸
- ジャンル 環境・景観
- 集落名 青石
- 高齢化率 87.5%
- 策定年度 平成12年度



### 問い合わせ先

羽須美村役場 地域振興課  
☎0855-87-0221 (代)

# ヘルシーファームみろくの里 —お芋

(瑞穂町)

や ひろ ばら  
**矢 広 原**

## 地域の概要

矢広原集落は高原地区の中心に程近く、小学校、公民館などの公共施設や商店などへは比較的  
便利性の高い立地条件である。集落内に弥勒地蔵  
があり、その社を中心に集落が開けている。高齢  
化率は瑞穂町内では一般的な数値である。

## 取り組み概要

### ① 経過

矢広原集落では、平成3年に瑞穂町で開催された「ふるさとまつり」に焼芋を出展したことを契機に、集落全体でサツマイモづくりに取り組んできた。15世帯で構成する「矢広原みろく会」を結成し、サツマイモの栽培から加工販売までを行っている。その活動を今後も維持していくため、本事業を活用することとした。

### ② 取り組みの状況

#### ① サツマイモづくり

集落で継続してきたサツマイモづくりも、高齢者の増加につれて共同作業が困難になってきたため、作業の分担を軽減し高齢者でも活動に参加しやすいように、中古トラクターや芋掘取機を導入した。また、サツマイモの苗づくりをもっと良い環境で行いたいと考え、苗を栽培するためのパイプハウスや温床設備等を整備した。今後は販売用の苗も栽培し、販売することで活動資金も得られる。収穫したサツマイモは焼き芋やサツマイモコロッケにしてお祭りや広島イベント等で販売していく。

### ③ 成果

作業を機械化することで、高齢者でも気軽に活動に参加できるようになった。パイプハウス等の設備整備で苗の栽培が容易になり、苗の販売で活動資金を得たほか、苗を栽培した後のハウス内でトウモロコシ等の栽培も試みた。サツマイモで作った「みろくの里コロッケ」も広島男子駅伝や広島テレビ住宅展示場祭り等で販売し、大好評を博した。なによりの成果は、集落で話し合いや活動を重ねるうち、取り組みに対して活発な雰囲気になって協調意識が芽生えたことである。

## 集落データ

- |       |       |       |        |
|-------|-------|-------|--------|
| ●市町村名 | 瑞穂町   | ●集落名  | 矢広原    |
| ●戸数   | 18戸   | ●高齢化率 | 37.9%  |
| ●ジャンル | 産業、交流 | ●策定年度 | 平成12年度 |

### 4 課題

- ① サツマイモの品質・収穫量等を向上させるための栽培技術の習得が必要である。
- ② 収穫時期や秋・冬のイベント参加時に忙しく、負担になる。
- ③ サツマイモ加工食品の種類を増やし、もっと工夫をしていく。
- ④ サツマイモ加工設備の整備をしていく。



### 今後のビジョン

かなり作業を機械化してきたが、今後はサツマイモの加工設備を整備していく必要がある。高齢化が進む中では各地のイベントに出掛けていくことは難しくなってきているので、広島などの都市部からこちらへ来てもらえるよう一日体験ツアーのようなものを考えていきたい。また先進地視察を積極的に行って、主体となって活動を推進する人材の育成を行う。数年後には耕作放棄の問題も懸念されるので、将来的に集落営農に繋げていけるような活動をしていきたい。

### 集落代表者の声

矢広原集落は平成3年からはサツマイモづくりに取り組んできました。兼業農家がほとんどで農作業が土・日に集中し、また高齢化が進む中では活動を維持していくことは難しくなっていますが、なんとか次世代へ繋げていきたいと思っています。サツマイモを活用してもっといろいろなことをしてみたいです。

私たちの集落には活動に対して積極的な雰囲気があります。これからもサツマイモづくりを通して、活力ある集落づくりをしていきたいと思っています。

### 問い合わせ先

瑞穂町役場 企画財政課  
☎0855-83-1123



# 中野原「夢豆腐・夢街道」づくり —みんなで集

(瑞穂町)

なか の はら  
**中野原**

## 地域の概要

田所地区中野原集落は国道261号と県道田所国府線が交わる地点に位置し、交通の便は良いが田所地区の中心地からはやや離れている。瑞穂町の集落の中では人口規模が大きく、高齢化率もそれほど高くない。

## 取り組み概要

### ① 経過

集落内で豆腐の製造販売業をなさっていた峠田フクヨさんが昭和60年に高齢のため廃業された後、製造のための機械器具一式を集落に寄贈されたのを契機に、婦人会を中心に豆腐づくりに取り組んできた。その活動を集落全体に拡大し、大豆栽培から豆腐づくりを行うこととなった。

また集落として河川の美化対策にも積極的に取り組んでおり、集落排水設備が全戸完備されることもあって、河川の景観づくりを行うこととなった。

### ② 取り組みの状況

#### ① 夢豆腐づくり

集落全体で休耕田7アールを活用した大豆栽培からの豆腐づくりに取り組んだ。大豆づくりは初めての試みである。豆腐づくりには今まで集会所を利用してきたが、豆腐づくりを本格的に行うため集会所の台所を改造して加工場を整備した。集落で1班10人程度の3班に別れ、1班あたり1ヶ月に2回(1ヶ月計6回)のペースで豆腐を作って集落内に配布している。伝統的な昔ながらの豆腐づくりを通して各世代間の交流を深め、活気を呼び起こしている。

#### ② 夢街道づくり(桜並木づくり)

集落のシンボルづくりと憩いの場づくりとして、集落内を流れる小林川左岸の河川護岸に桜(ソメイヨシノ、ヤマザクラ)の苗を50本植樹した。植樹は集落で行い、今後の維持管理も集落で行っていく。河川改修も集落排水施設整備も平成12年度に完了し、数年後には美しい桜並木が生まれ、地域の人々が集う環境が整う予定である。自分たちの手で守っていくことによって集落への愛着心が芽生え、それを次の世代へ伝えていけるようにしたい。

## 集落データ

- |       |          |       |        |
|-------|----------|-------|--------|
| ●市町村名 | 瑞穂町      | ●集落名  | 中野原    |
| ●戸数   | 42戸      | ●高齢化率 | 36.4%  |
| ●ジャンル | 産業、環境・景観 | ●策定年度 | 平成12年度 |

えば笑顔がいっぱい

### 3 成果

豆腐づくり自体は婦人会を中心に行っているが、加工スペースが広がったので余裕をもって豆腐づくりに携わることができた。今まで行っていなかった大豆づくりは試行錯誤だったが、種まきや草刈り、刈り取り作業を共同で行うことによって各世代間の交流が深まった。夢街道の桜並木はまだ小さいが少しずつ花を咲かせており、数年後には立派な桜並木になる予定である。

豆腐づくりや植樹を通して共同作業を行い、集落内の活気を呼び起こして元気の出る集落づくりをこれからも進めていく気運が高まった。

### 4 課題

- ① 大豆づくりの体制を整備する。
- ② 豆腐の種類を工夫する。
- ③ 桜の木の維持管理体制を整備する。



### 今後のビジョン

これからも豆腐づくりを継続していきたい。伝統的な豆腐の他にもモロヘイヤ豆腐、タカノツメ豆腐、カラシ豆腐、黒豆腐などの変わり豆腐を作ってみて、いずれは販売できればと考えている。集落全体で何度も共同作業することによって集落の絆をより一層深め、連帯感を強めたい。

桜の植樹はこれからも行い、夢街道を延長していく。そのためにも桜の維持管理をしっかり行う必要がある。集落のシンボルづくりと憩いの場づくりのため、桜以外の設備の整備も検討したい。

### 集落代表者の声

中野原集落として、この事業を取り組むことにより集落内の連帯感が一層深まったことは大きな成果であったと思います。

私たちの集落は昭和の終わり頃から婦人会を中心に細々と豆腐づくりを行ってきましたが、この度の事業により加工場や機器を整備することができ、より効率的に作業ができるようになりました。

また、これまでは購入していた大豆を集落で共同作業で作ることにより、世代を越えた絆が深まったように思います。

これからも集落内のつながりを継続し、まとまりのある集落づくりのために、無理のない範囲で共同作業や豆腐づくりを続けていきたいと思っています。

### 問い合わせ先

瑞穂町役場 企画財政課  
☎0855-83-1123

# 気楽に利用できる停留所 小さ

(石見町)

しも 郷  
**下**

## 地域の概要

下郷集落20戸のうち自者水田耕作は14戸、耕作を他へ依頼しているのは4戸で、いずれも高齢化と後継者不足の悩みを抱えている。集落のほとんどが兼業農家で、春の田植えや秋の刈り入れは土日の休みに作業が集中するため、各戸で高額の農機具を所有しており、米価の下落や高齢化の進行により農地の維持管理や農機具の更新等に様々な問題が生じている。

## 取り組み概要

### 1 経過

事業の取り組みについては、「ビニールハウスを建て四季を通じた花作りで活性化したい」とか、「休耕田で梅を栽培し梅干を作りたい」等様々な意見が出され、半年かけて集落の課題と可能性を探った。何度か会合を重ねるうちに子供たちの意見がきっかけとなって、町営バスの停留所の建築に意見がまとまり、事業推進のため代表者5名で検討委員会を設置する。

### 2 取り組みの状況

下郷バス停留所には待合所もなく、町道と県道が交差する三叉路にあるため見通しも悪く決して安全な場所とは言えなかった。また、この停留所はほとんどの利用者が学生や高齢者で占められており自転車や電動車を利用しているが、駐輪スペースがなく不便な状況であった。100万円事業の活用により、元のバス停を24m移動して新たなバス停を建築することによって安全な待合所と駐輪場を確保した。

### 3 成果

バス停の建築に集落全体で参加し、瓦、サッシ戸、時計、花瓶などが寄贈されたことで経費の節減にもなり、集落のバス停という意識がより強化された。

バス停が安全な場所へ移動したことによって、路上でバスを待つこともなく交通面で安全が確保され、雨や風が防げるために快適にバスを待つことができ、また駐輪場があるため安心して駐車できるようになったと好評を得ている。小さなふれあいの場ができたことによって、地域のコミュニケーションが図られるようになった。

# なふれあいの場所

## 集落データ

- 市町村名 石見町
- 戸数 20戸
- ジャンル 環境・景観
- 集落名 下郷集落
- 高齢化率 39%
- 策定年度 平成12年度

### 4 課題

- ① 市町村合併による学校の統合
- ② 少子・高齢化の進展



### 今後のビジョン

バス停の建設に集落全体で取り組んだことによって、集落の自信や励みになり、更なるコミュニケーションが図られ親睦が深まると思われる。子ども達にも決められた所に自転車等を置き整理整頓や社会のマナーを学ばせ、さらには子どもや高齢者がより安心して利用できるように維持管理し、集落全体で美化に努めるなど集落の子供たちが、地元を離れても自分の育った地域に誇りを持てるような事業展開を図りたい。

### 集落代表者の声

下郷集落班長 中井 伸人

高齢者の外出の手段として普及している電動三輪車は、家庭用のコンセントからの充電で約5時間の走行が可能だが、起伏の多い下郷集落では外出の際バッテリー切れにより立ち往生することもあった。バス停に電動三輪車の専用充電スタンドを設置することにより、さらに利用しやすいバス停を目指したい。

本事業は3年間の実施期間があり、集落全体で時間をかけて取り組むことができ集落の結束に繋がったと思う。今後も集落活動に対する支援をお願いしたい。

### 問い合わせ先

石見町 企画財政課  
☎0855-95-1119